

# 洛東の丘

～校長室から 洛東生の皆さんへ～  
令和3年1月29日(金)第31号

今週の四字熟語

一心不乱(イツシンフラン)

心を乱さず、集中して物事に取り組むこと

# 祝 日本一!

JKJO

## 全日本空手道選手権大会

高校女子48Kg未満の部 ・ 一般女子軽量級

ダブルタイトル!!

3年7組

# 酒井 琉翔さん



### ☆真のアスリート☆

昨年12月20日、国立代々木体育館第一競技場（東京）において、第14回全日本ジュニア空手道選手権大会（カラテ甲子園）及び第12回全日本空手道選手権大会が行われ、本校生徒の酒井琉翔（るか）さんが、ダブルタイトルの栄冠に輝いた。

先日、学年末考査中の放課後、酒井さんに無理を言って話を聴かせてもらった。日本一の空手家の酒井さんと初めて対面するということが、その日が来るのをとても楽しみにしていた。

担任の東先生に伴われて少し緊張した面持ちで校長室を訪ねてくれた彼女は、いわゆる普通の女子高生だったが、軽く挨拶を交わした後ソファーに座る姿勢や眼差し、受け答えや所作のどれをとっても真のアスリートと呼ぶにふさわしい、おそらく日常の鍛錬で培われたであろう立ち居振る舞いであった。

### ☆酒井さんのバックボーン☆

実は酒井さんのお父さんは京都を本部として全国に多くの支部を持つ「空手道 桜塾」という道場の代表をされている。その理念は「苦しい時に苦しい顔をせず一歩前へ」というもので、頭で理解できても修行を積まないとなかなか到達できない境地である。酒井さんは毎日の稽古、そして小さな子ども達への指導をしながら、この理念を忘れず挑み続けてきた。

全日本新武道連盟

# 桜塾



苦しい時に苦しい顔をせず一歩前へ!

### ♣ 3歳から空手道一筋 ♣

お兄さんの影響で空手を始めたという酒井さん。小柄であるということもあって、なかなか勝てなかったという。勝てない悔しさ、そしてお父さんが「師匠」であるので休めない辛さなどから、「やめたい」と思わなかった日はないと言う。

しかし、中学校2年生のときに転機が。ある大会で一つ年下の「負け無し」という選手と対戦。負けたくなかったその選手との戦いがきっかけで、練習に一段と熱が入ると同時に「小柄なり」の戦い方を修得しはじめた。

### ♠ いつも恐怖心が消えない ♠

「恐怖心はないの？」と尋ねると、「怖いです。」と即答。私は「そうだろうなあ。怪我もあるだろうし、顔面に蹴りをいただくこともあるよなあ。」と浅はかな推測をしていると、そんな次元のことではなかった。「自分の攻撃が奏功するのか？」「相手はどんな戦術でくるのか？」など、つまり「敗れる」ことへの「怖さ」だ。「負けることが怖い」から稽古する。勝った次の瞬間から次の戦いへの準備を始める。これが「勝負の世界」の掟なのだろう。



### ♡ 友達とマクドヘ行くことも♡

こうして書くと『空手家 酒井琉翔』はJKとはほど遠いように思えるが、あくまでも『普通の女の子』だ。空手一家に生まれた宿命とは言え、毎日の稽古で友達と遊びに行けなかったりすると、「なんで私だけ・・・」「私も遊びたい・・・」などの気持ちがあつたと言う。それもつい最近（高校2年）まで。今回獲ったタイトルが明確な目標となってからは迷いはなくなったと言う。

しかし、四六時中「格闘家」ではない。友人に誘われればマクドにも行く。が、食べない。試合に出場するための減量があるからだ。これも宿命。友人には絶対気をつかわせたくないの、思いっきり食べてもらう。一緒に談笑しながら耐える。辛いだらうと思うが、きっと酒井さんにはとても大切な時間なのだと思う。自分が生きる世界のことをまったく知らないが仲の良い友達・・・戦いのことをしばし頭の片隅にしまい、来たるべき勝負のために備えるかけがえのない時間なのかも知れない。

## JKとは？

2003年6月、全日本空手審判機構(通称JKJO)が「ルール統一」「審判員レベル向上」を目指して発足しました。各地で「審判講習会」が行われ、趣旨に賛同する団体数が150を超えた2006年に機関誌「JKJOマガジン オスカラテ」創刊。2007年、各地区から選抜代表権獲得方式による「カラテ甲子園!第1回JKJO全日本ジュニア空手道選手権大会」を開催。2009年に一般大会「第1回全日本空手道選手権大会」を開催し、審判技術向上の講習会開催と大会運営を同時に行う事になりました。2010年7月、ライセンス発行から管理、大会運営までを行うJKJO本部事務局を神奈川県横浜市都筑区の地下鉄センター北駅近くに開設。2011年8月、全日本空手審判機構で行われていた大会運営業務を中心とする法人組織を立ち上げることとなり、「一般社団法人JKJOフルコンタクト委員会」が発足されました。ライセンス業務、審判講習会などは「全日本空手審判機構」が継続運営とすることとなりました。

現在、フルコンタクト空手道は、競技人口や大会開催など本国はもちろん、世界的に普及している日本の武道であります。しかし、日本に於いてはルールや団体間の問題で統一した機関がなく、日本体育協会や、オリンピック委員会、文部科学省などの公的機関の加盟・認可・承認がされていません。(社)JKJOフルコンタクト委員会では、よりグローバルな視野と見識で公的機関と認められるような社会体育活動を行っていきたいと思っております。





### ☆彡「頂点」という景色☆彡

「てっぺん」「一等賞」「一番」「頂上」トップを表す言葉は数多い。「2位じゃダメなんですか？」とはいつそやの政権のある政治家の発言であり、「No1にならなくてもいいもともと特別なOnly one」と歌っていた人気グループもあった。2位ではダメである。ならなくていいなどもってのほかである。勝負の世界は「勝利」を目指し勝ち取った者にしか決して見えない「景色」がある。1. 2回戦で負けているときは、準々決勝まで進めたら・・・と思うし、準々決勝まで行けば準決勝で戦ってみたい・・・となる。準決勝に行けば当然次は決勝に行きたいとなり、決勝に行けば優勝したいと思う。つまり、一度その景色を見てしまおうともう下の景色では満足できないのだ。「勝つことだけがすべてではない」とはよく聞かすが、これは勝ったときに言う言葉だ。負けたときに「負けたけど、勝つことだけがすべてじゃない。」と慰めるものではなく、「勝ったけど、これがすべてではない。まだまだ足りないものがある。」と戒めるためのものだ。

酒井さんは勝負についてこう語る。「私が勝ったということは同時に敗者がいる。敗者が私と戦ってくれたことで今の私がいるし、戦い終えた後は相手に感謝の気持ちがわいてきます。同時に、悔しいと思ってまた練習に励むだろうし、私も負けてはられない。」と。「勝って兜の緒を締めよ」と言うが、酒井さんほどのアスリートになると「勝ち」を手放しで喜ぶのではなく次戦への準備とともに「敗者への気遣い」つまり「心の痛みを知る」ことを忘れない。

「勝つ」ことの一歩上、つまり「日本一」となった。彼女が目指したタイトルであり、観たかった「景色」だと言う。これ以上はない「景色」を観た酒井さんは、3月に行われるランキングファイナルでランキング1位（現在1位）になることを当面の目標にしている。最高峰の頂に登り詰めた彼女に襲いかかる敵を返り討ちにするため、今日も入念に準備を行っているに違いない。心から応援しています。そしてくれぐれも怪我や故障のないように。一流から超一流へ。

